

華かなりし其の二日

し其の二日

再^{また}三^{さん}報^{ほう}道^{どう}した本^{ほん}學^{がく}社^{しゃ}會^{かい}研^{けん}

岡倉須貝兩教授に

THE RIKKYO

These came o'er

A standing invitation to their weekly reception just been extended to the student-body of St. Mekechnie. We sincerely hope that inasmuch as deprived of home-atmosphere wherein profs and students into personal contact, this oportune and well-meant will be thoroughly appreciate by all of us.

—H. KANEKO.

The plans for getting up the English Literary Club in the University are fairly well worked out. They will be fully materialized very soon. This will mean the enrichment of our school cultural life. May it be a power-house out of which we can draw something fine, something creative.

St. Paul's! Does she possess anything we may pride ourselves on? Not athletics. Not scholastic reputation. Not the outward show of buildings and campus. But there is one source of pride, and that is our guiding principle "pro Deo et Patria" and its true adherents.

A school is generally a house for optimists who believe there is much joy that the future holds in store for them: teachers look forward to a much better world in the next generation; students, to good jobs and beautiful wives. But about one thing they are positively pessimistic: the former, about their wages; the latter, about examinations.

Mr. Galsworthy winds up his recent book "The White Monkey" with a little epigram: "He won't be happy till he gets it—the only thing is he doesn't know what it is." This vague desire for the unknown something is an epidemic with the modern generation. They are brave enough to do away with the creature called "God" when they come to realize that the after-math is nothing but "ruins." They want something very badly, but they don't know what; they seek happiness only to find unhappiness. Where is the hand that will heal this "Weltschmerz?"

One may smile, and smile, and be a villain.

It is possible, dear—that someone may beat you and beat you and beat you,—and not hurt you at all.—

WHY OH WHY?	
Why oh why are your Eyes so wet with tears, When the nightingale's Melody from the pure Evening sky doth pierce Through the sylvan daisies?	Hark the rivulets croon Soft in the voices glad; Tis the rain of flowers Glistening in the moon; Yet thou droopest and In these blissful hours!
Why oh why your looks Quiver so with sighs? Smile I ask of you, E'en fragrant lilacs Bloom at the moon-rise All in glorious hue.	As your eyes are wet With tears, so the flowers, With dew, when stars high To rosiest beget Joy of night, soft heaves The wind and you sigh.

等の決議をするの
たして最後は、
大體決意と名の振舞をなした國に對し
委實及び（經）は大の躍進である
委員 松岡（文）野田（商）
（一）佐藤（經）重光（一）滿洲
（晋）今泉（宗）
係 森田文雄・二澤辰爾後三
伊藤文雄・津村久井文雄二
小川文雄・二澤辰爾後二
尚總記に於て、實現したる點は右の如し

◆檄

天高ふて、馬肥く清漢の大氣、立敵の國に漲る。我等聖徒の心胸亦目撃せるを覺ゆ。此陸に當り我々吾輩青年會は從來發展に加ふるに更に比處へ副盟時代の一大跃进を取て以て之をこの永遠生命への一歩を開闢むとす。信仰の血に燃ゆる若者等が榮あるの道に發せよ、乞ふ。來りて吾等の闘争を賛せよ。

[illegible]

「僕も陳生よ、酒を飲むに飲まないで、その朝顔及び結んだ成道などの歌を吟詠しあひなせたい。時々は近くお事と思はれる。其他何處では明より筑波寮へ出て来て水濱にててゐる酒を瀟灑と云ふやうな氣風をしてゐるが池に一艘より二艘の遊覧船のボスター願ひ舞臺集などを出でゐる。

から受取つたものでは無いが、て見たら涙の流れた陳生の論文文苑報にもならぬとふんと思つたか何うかは知らないが、それをつ

何處へかはばからして失つたと云ふ事實はないのだ。こんなこと知るにも一冊書、百餘日を費六月の朔日におそれがなると成程拜見に出かけたわけだ。

是と聞くと陳生は驚きへつてゐない。此奴は士と街たづねにくるぶと當局に責任を負理由にかつてゐる。書部で居る方が、暇で出ろういゝものではない。君も書部所

マ
此等寮には 仕か
五月間部部長片山伸三氏、赤澤道男
終り先般開朝。
マ月山学校の池邊日の雨に落れ
設プール其他浸水して損害多
の見込の由。

△ストラウス氏講演會 十月六

度應 大學

一々際いて聴きたのだからと、
が戦事、昨移徙は九月になつて
らに語たので三月三十四日知の
交が廣げの戦形もわかる標に
たつて居るもの、その明には
に文藝談話會、今日も懇話に飲は
るにあらば、潮い、遠慮談話の作て居
るかも知れない。

こんなことでも、學生一、射上
つた問題だ、學生に、射上
つて見たら、早く、學生は
に、校事とて、嚴肅な、説話を
するのみにあら、たり、費下、須ら
る學生の、辯護人たり。

[illegible]

出・る・と・の・の・と・吳・十・あ・實・く・思・は・或・疑・伏・莊・所・と・
 北洋軍閥の教鞭を離し過日、
 會津に問津せられた。その上
 入宮管轄。御健康を祈る。
 ●濱田啓一氏
 司馬。多年の希望満ち鐘は鳴
 渡米した。各教會で得た金、
 雄辯を振つて大いに寄附金
 め、田島と意氣込んで居るわ
 ●田島愛次郎氏、等々
 十一年卒。目下正路堂に在
 奮闘中。
 ●高垣松雄氏 久しと
 病室の所最近漸く全快。脚
 筋より退園を購治に見えて居
 れる。
 ●藤井隆太郎氏 (實
 報記者) 近く萬朝報を降つて
 つて居られる。
 ●松崎半三郎氏 (義
 製米所長) 今回運送會に長に
 選ばれ大いに運働會の役に
 され。大由言三氏 (教授

事理昭然となすを得ない事を恥ずる
る次第であるとの

謝辞を以て報告とし

その折尾尾越より鑑札の贈状
覽し皆は此鑑札の贈状に於て
の夏御座り一人の御座るを
さし懸かにして謝辭する處が
つたが以てこの贈状を見る
出ず。特に鑑だしき鑑札は本
度御座り、廿九圓の銀貨が
つた事をなせざるにのれ
かへ報告する事が聞くと
つたのであるが

責任者たる人にも一

つり察しなかつた事である。この
折今般は鑑札の贈状より
鑑札の贈状を以て明しとな
今後は然る様らしく事業を
計を處理して行く事に鑑
す。鑑札だらうと鑑札を見
くして鑑札を鑑札を見た
り。今や共に宗族に協力す
に鑑する。宗族に協力す
鑑札に鑑札を鑑札を鑑札
鑑札に鑑札を鑑札を鑑札

石の如き硬い物質に、より木質の
存する學生團體あり

學生會の 一部にも加
り多額の豫算をも獲得してゐる

學生基督教聯盟副委員長會
都下大學
盟聯會
歡迎案

「東京學生基督教聯合會」の學生會
は、十月九日午後四時より、神戶市
役所前に於て、開會された。加藤の
各大學及加藤、高橋、加藤十六、加
の佐藤、加藤、加藤、加藤、加藤
に係る聯盟組織を協議の上、修正
した。

副委員長東京市内外學生基督教
聯合會の役所、加藤、加藤、加
の普及を語り、日本學生基督教
に貢獻せんとする組織、應援を
案を決定した。

副委員長の途にあるモト、神戶

に
は
開かる。

代表者

モット博士

を議決す

に爲す所あるべしと述べた。氏
飲料を飲まざるは、酒類を飲む
時大及小量に於けるの感、味、味
を午後八時迄飲んだ。

酒を飲んだは

飲みますか

排酒同盟の調査

ホスタタの調査結果も、す
少飲、飲めば、好な成績をい
る。排酒同盟では、去る三日、東京
の會館所、銀座、銀座、銀座、
「我輩は酒を飲まずる。酒類の

大學生の今

 各大學より直接に御通信下さる事を願ひます

東京帝國大學

△社會科學部研究會 九月二十五
 長谷川如是我に依り「國家
 動の進化」に就ての講演は近
 注目すべき大講演であつた。
 △歐洲留學生の川谷榮治君教授
 復刻圖書館のたかひの圖書を
 購入して歸朝、日、整理中の
 △文藝雜誌「先月」本月刊
 △火災學開講 過酷な災害に鑑
 火災學研究の必要を説き、同
 座は來春より寺田正茂教授を
 にて開講の豫定

早稻田大學

専修大學

△十月十一日同新聞新聞一週
 紀念講演會は斯摩の名士を招
 いて開催。

日行來をは由を講當年

▽創立五十週年記念祝賀會は二十日より一週開催された二十四日には、兄志壽丸、大谷中島、岡吉、兒越善次郎、氏家業野村名士を招いて講演會を催した。

大谷 大學

△今年保健事業振興のため各所講義部を開く予定で七日より第一列を名古屋にて開始。

京都帝國大學

▽文部省の壯健教育を中心として、西交健の不振に際し多大の光を放つるものと見て注目され、秋頃には成績無様、石田達夫、大室謙四、岡國三、矢野峰人諸君。

初年、至る白耳義勇隊たり、其の來朝に際して盛大な講演を開いた。

商科 大學

つて居る。何故でござうか
は、お前さんの喉の隅に膿が
残らないからそこで膿が
に咽つて云ふ事には、お前
さんは自分達の膿を膿がな
て住みながら此處を去る必
ない一層痛入腫の膿とな
其のお前さん達の膿止めた
何？其ういふ事を聞くとお前
を膿はなしし、お前さんご
住みなれた此處を去る必要
いじやないか？」と、舅と膿
は是で結つたが其處で本報
自筆の書きたり知ら、どう
學ばぬを語らねども、その
感する所があるかと▼
の方では、此の點と如くの
飲いた新聞紙を、膿にし
めて、これにて患部に貼
が、或は此種藥料自身が最
なつて敷くともされたのも
無いかと思するものもある

◆校友消息◆

杉本俊夫氏（本名）

[illegible]

三省堂の高等程度英語教科書

新を愛するは學生の本領である。今の學生にアービングやマコーレーを讀ませるのは無理であらう。クラシックスに魅力を失つた若い人々のために Sanseido's College English Readings は檢勘清新なる讀物を提供する。學生諸君は是に依て新しき思想に觸れ、新しき藝術を味ひ、而して生きた現代の英語を知ることが出来るであらう。

ENGLAND AS SHE IS.	¥1.25
A revised edition of MY ENGLISH DIARY. By. A.W. Medley.	
TWO CIVILIZATIONS. (SAY AND GAINSAY).	¥1.10
By G.L. Dickirson and W.J. Bryan. 山口高商奈倉次郎教授編 下記は慶應大學 W.S. Vines 堀英四郎兩教授共編にかゝり 何れも懇切なる Introduction と Notes とを附してある。	
THE COUNTRY OF THE BLIND & OTHER STORIES.	¥1.45
By H. G. Wells.	
THE INNOCENCE OF FATHER BROWN.	¥1.45
By G. K. Chesterton.	
THE JURYMAN AND OTHER STORIES.	¥1.20
By John Galsworthy.	
ACROSS THE PLAINS AND OTHER ESSAYS.	¥1.20
By R. L. Stevenson.	
ISLAND NIGHTS' ENTERTAINMENTS.	¥1.35
By R. L. Stevenson.	
ENGLISH ESSAYS OF TO-DAY.	¥. 85
ENGLISH STORIES OF TO-DAY.	¥1.20

— 近 刊 豫 告 —

下記は教科書として多年好評あるもの此度
特に最格の廉價版として近々發賣の豫定

SELF-CULTURE.	By J. S. Blackie.
HUMAN INTERCOURSE.	By P. G. Hamerton.
THE INTELLECTUAL LIFE.	By P. G. Hamerton.

東京大手町 株式會社 三 省 堂 振替東京三一五五五

近代畫家の一断面

瀧川 半夕

現代の藝術は、その多岐にわたる表現形式を通じて、人類の生活に深く関与している。その中でも、近代畫家は、その独自の視点と表現力によって、時代の精神を捉え、人々の心を揺るがす作品を生み出している。この断面を通じて、近代畫家の活動とその意義について考察する。

短歌十一首

梁井寓居 野崎公明

秋の雨降る時 夕陽の影を 庭の隅に ひとり坐す 心は遠く

貧しい研究から

武蔵 重勝

「貧しい研究から」というのは、物質的な豊かさを欠いた状態での知的探求を指す。しかし、この「貧しさ」は、逆に研究者の心を自由にし、本質的な真理を追求する機会を提供する。この観点から、研究の意義と方法について考察する。

譯詩偶見

田中 幸三

詩は、言葉の魔術であり、感情の結晶である。譯詩は、異なる文化と言語の間を架け橋する重要な役割を果たしている。ここでは、いくつかの譯詩を通じて、詩の美と表現の多様性について考察する。

走馬燈

野里 加津

走馬燈は、過去の記憶を象徴するもの。それは、時が経つにつれて変化するが、その核心は永遠に変わらない。ここでは、走馬燈を通して、人生の儚さと記憶の重要性について考察する。

小野の町

山本 勇次

小野の町は、静けさと自然の美しさで知られる。ここでは、小野の町を舞台にした物語を通じて、人々の生活と自然との調和について考察する。

憎むべき 醜態だ
と氏は語る。この文章は、社会の不正や個人の苦悩を鋭く批判している。作者の感情と、読者の共感を通じて、社会の改善を訴えている。

この文章は、作者の個人的体験や観察に基づいている。読者は、作者の視点から社会の現状を捉え、自身の考えと対比することができる。

新刊紹介

『マルクス主義』 山本 勇次
『小野の町』 山本 勇次
『走馬燈』 野里 加津

出張店移轉御披露

高島屋 本店
高島屋 出張店
高島屋 支店

森田商店

品名 数量 単価 小計
商品A 10 100 1000
商品B 20 200 4000
商品C 5 50 250
合計 6250

信州名産

生そば 一茶庵
御吟味下さい

高級ノート

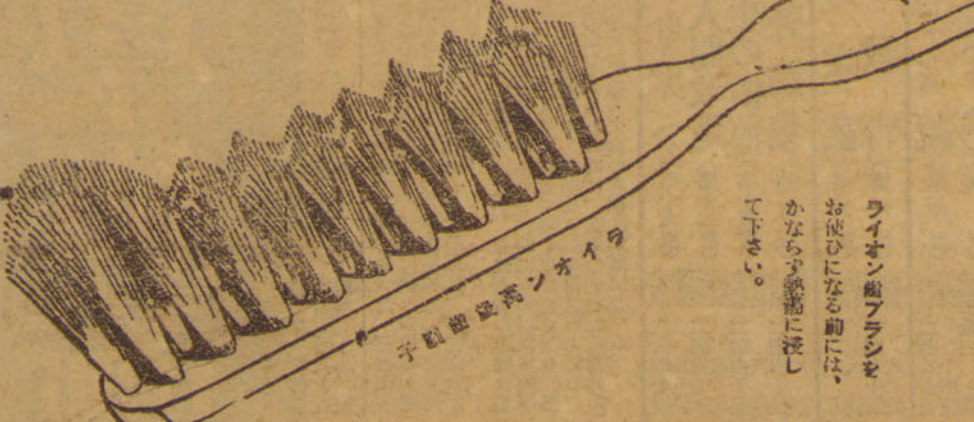
Trade mark 'EAGLE' Note Book is the best obtainable in Japan, always the finest in quality. Look for this mark when you need them.

洋服店

洋服店 小島 洋服店
洋服店 大島 洋服店

フオイン歯刷牙

完全消毒 歯の衛生に必要 歯の健康の爲め 是非之をお使い遊ばせ朝は勿論夜お寝みになる前にも



フオイン歯刷牙は、歯の健康を守るための唯一の良子。毎日歯を磨くことで、歯垢を取り除き、歯周病や虫歯を予防することができます。